夕刊
磐城新聞
八月十日發行
定價 一ヶ月金六十五錢 一部金五錢（郵稅拾五錢）
廣告料金 普通欄一行金六十錢 記事欄一行金九十錢 五號十二字詰一行一回（場所指定一行增）
編輯印刷兼發行人 柏木一行
發行所 磐城新聞合名會社 福島縣石城郡平町十六番地
登錄交換略（タイライワキ） 平局私書函第十二號 電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）

随筆 初秋 (2)

大内正之介

秋風がたつて來ると、僕の懐は何時も空になるのが常だつた。經濟的の淋しさと精神的な――秋の寂寥さと二重の淋しさを味はねばならなかつた

今年も――。財政の窮乏はその極に達してしまつた僕は、いとこに宛てた病氣見舞の手紙を、机の上にぽんやり眺めて――そうした姿態に倦怠を感じ後に仰向けに倒れた。瞬間片山潜の演說してゐる寫眞の――振上げられた右手が〃ドシンを卓を叩いたやうに見えた

三錢切手の買えないゝまの僕、……ハハハと思はず笑つてしまつた。が、その笑ひ方がきつと淋しかつたことを知つて、急に無表情な顔をした

何がこんなに窮乏に追ひ込むのか？愚にもつかぬ自問が出る――考へるのがおつくうだ。けれど答へておかないと――面倒臭い、で『精力の缺乏の結果だらう』と、しようことなしに結論を與へて、ふつつりそんな考へも絶縁する。しばらく薄暗い大空のやうな心理狀態が保たれる

最近、僕がある文學サークルの座談會に出席した折如何なる立場において檢閲制度改[illegible]運動に贊同するか?。といふ質問を受けたことがある。之に對して次のやうに答へておいたのを記憶してゐる

檢閲制度を見る態度に一は階級的壓迫とする者と他の一は單なる自由の束縛、眞理への欲口とする者との二つに分つことが出來るが自分はいまその何れの態度に屬するかを明言するのを差し控へたい煩悶期にあると。この時、既に僕は自分がイージイ・ゴオイングの線にそうてゐることを意識した

かつて僕が、文學新聞の第三號かに『百姓』といふイデオロギイに歪められたつまらない小說を書いたことがある。――それに就いて德永直氏だつたかが『東京朝日』に『新らしき文學勢力の導き』といふひよう題で、……作家は天から降るものでもなければ、地からわくものでもない――と、頗る當然過ぎたことを云つて、非既成作家を、おだてあげてゐた。勿論、こんな當然的な言葉が、僕等一味（こんな言葉は使ひなくないのだが）――が尊重する黨派心から出たことは知つてゐる。がしかしこの德永直氏の黨派心に、僕は奇異な感じを抱く。――尊重する意味に他意のあるやうに思つた

中央公論の七月號の文藝時評で、廣津和郎氏はやはりこの德永氏の黨派心に就いて云つてゐる――

それは『改造』に載つた藤森成吉氏の『爭ふ二つのもの』についてゞあつて――この作を德永直氏が賞めたのは黨派心の然らしむるところであつて、……こんな作まで賞めなければならないといふ事は、進歩ではなくして、退歩だと言ふ――と、ひどくこの『爭ふ二つのもの』と『黨派心』を結び着けて蔑視してゐた

然し、ぼくはこの爭ふ二つのものを讀んでゐなかつたので廣津和郎氏の評價にあたひするものがどうかわからなかつた

本社主催太田水穗氏御夫妻歡迎短歌會詠草

（欠席者の分）

○頬にあたる風は涼しく潮の香のまちりし吹ける磯の窓かな　草野清省

○ことさらに蒼き潮色夏來れば、濱は大漁の日の續くなり　芝章二

○清らかに父は老いけり窓の下の、せまき土地にも花作りして　八幡秋月

○川風に御簾巻き上げて屋形船、舟窓邊りに仇な面かげ

○高潮に力盡きしと友の語る、渚に埋るゝ舟影淋し

○埋れ果てゝ葬ふ人も荒潮に、力やぶれし舟影ぞ哀れ

潮聲硯靜抄帳

雜詠當季　天野雨山選

炎天にふくるゝ海のひかりけり
炎天のひかりを放つトタン屋根　芳月
炎天に坂ゆく牛のよだれかな
炎天や仙舟光る掌　文狂
砂利をつく線路工夫や炎天下
炎天の街に軋しる電車かな　松堂
炎天の陽をはね返す礫石
炎天や泡を生みゐる池の鯉　武門
炎天の大利根下る白帆哉　石城
炎天に猫水なめるさまを見る　竹羊
炎天やしたゝる杉の脂赤し　翠山
炎天の下に熱球砂をかむ　鶴歩
炎天に青薬背に狢ふ荷馬車哉　欽一

鈴虫（二）

平二　大方勝義

友の鈴虫りん〳〵と
鈴を鳴して唄ふ歌
ち――と聞いてた鈴虫
お日樣沈んでお月樣
ふくろのおばさん宿る森
に
ぽつかりうかんだお月樣
じつと見つめて銀の鈴
わすれた森を思ひ出し
銀々きら〳〵金の星
夜つゆにぬれた草の葉を
眞白く昭す草の中
草をわけ〳〵銀の鈴
たづねて森へ行きました

社會の今日

8月11日 △元の使者を博多に斬る（弘安二）△登記法證人規則制定（明治一九）△支那長江の洪水日本租界危險に瀕す（昭和六）△遞信政務次官後任牧野良三氏任命△東邊道の匪賊跳梁假政府を建て匪賊的行政を布く（同七）

○

大旱を怒りいかづち荒れにけり　月斗

納涼展今宵河原に開かれて、水に映れる灯のうつくしき　松本重四郎

美味で評判の イワキサロン 平町電三五二

講談 劍火無情 (89)

津屋義人作　菅野祐作畫

脫出の後（三）

『コレ〳〵油斷召さるな。此婦人は神主の娘などではない、粗服を身に纒ひ紅白粉を裝つては居らぬが、これが聞へた水藩の美人で父稲之右衛門と共に脫藩した田丸松子だ。山上にあつても常に父を助けて戰陣に立つ者だ』

『ギェーッ、さては敵將の娘か』

軍卒は俄に緊張して、松子の左右から、其手を取つて引縛らうとするのを、松子は猶空とぼけて

『飛んでもない人違ひ、私は權現堂の左に住む、禰宜宮内齊宮の娘しのぶと申す者でございます』

最初見破つた一卒は聲を荒げて

『エ、僞りを申しても駄目だ。身共は其方が脫藩當時まで、水戶御城内のお長屋に居つて、朝夕其方の顔を見て居つた。唯今こそ其方の父稲之右衛門とは敵味方の仲なれど、以前は常に心易くいたした仲、何で人違ひを致さうか、田丸松子と名乘つて了へッ』

今は隱し切れなくなつた松子は嘲るやうに言つた。

『さう知られたら仕方がない。そんなら言つて聞かせやう。如何にも察しの通り田丸の娘にして筑波山の軍師と言はれた佐賀の浪人、秋岡丹三郎の妻松子である。さア斯う名乘つた上からはもう默つては通すまい。此方も亦ォメ〳〵縄目の恥辱は受けぬ。召捕れるなら召捕つて見よ』

身構ひして帶の間なる懐劍の柄に片手かけた。

『ソレッ引捕へろ。高の知れたる女一人。何程の事やあらん』

『然し婦人に似合ぬ腕利きであるぞ。江戶表でも八丁堀の同心を苦しませた賊婦だ。侮つては不覺を取るぞ』

戰時狀態の今、縄打つといふやうな暢氣な事はしてゐられぬ。

『エ、手向ひ致すか、斬つて捨てよ』

ズラリ〳〵と陣刀を拔いた。唯一人の松子を十人が取圍んだ。

『汝等名もなき雜兵に斬らるゝ松子でない、いづれも首を洗つてそれへ出ろ』

十人大に怒つて、劍の林を作つて八方から斬込んだが、八寸餘りの懐劍に防がれて一歩も前進出來ず、後へ〳〵と下がる

此騷ぎを聞き附けた麓の陣屋から五六十人の軍卒が『何事だ何事だ』と馳附ける

『敵の大將田丸の娘だ、女ながらも手剛い奴、助勢を賴む』

遂に弱い音を吹いた十人或は槍、或は銃を取つて立向つた

今は是までと思つた松子飛道具では敵はない、豫て父から讓られた最後の護身用は、其頃まだ多くはない種ヶ島の短筒であつた。飛道具は卑怯な武器なれば、手詰となつた最後の場合之を用ひよと言ひ聞かされてゐた。

『いざ松子が最後の働き之を見よや』

轟然一發、朦々たる彈煙の中に一卒は血に染まつて打倒れた

一發又一發、續け打に五六人は斃された

『ヤツ種ヶ島だ、危ない』

普通の小銃に彈込めする間には彼の女は二三發を連發する

彈煙に身を隱した松子、いつの間にか其姿を何れにか沒し去つた

『ヤ、ツ、何たる事だ』

『取逃がしたか殘念』

『何うやら松子は忍術も使ふらしい、今までゐた姿が見へぬ』

『敵ながらも天晴女傑、美しい綺緻と言ひ實に立派な婦人だ』

『コラ〳〵、感服してゐては可かん。手分けをして探さにやなるまい』

『探し當た處で又種ヶ島を突附けられては駄目な事だ！』

『忌々しい女だ』

『長追ひ無用だ、引揚やう！』

『氣の毒なは三人絶命、三人の重傷、飛んだ者に出會つたナ』

『神主の娘で通せば可かつたものを、誰だい田丸の娘と鑑定したのは……』

互に後悔し合つて己が隊長に此失敗は上申出來ずボンヤリとして立去つた。

悩める者の手記　六

（此の一編を亡きMの墓前に送る）

前田勝江

私はさびしく、さびしく歸つた。けれども私の胸はたまらない。泣けて泣けてたまらない。でも仕方がない。男の意地をはらふとするお前の心にも同情する自分なのだ

會ひたくて來たの？一里の暗い山路をわざ〳〵訪ねて來ながら會わずに歸るお[illegible]地つぱりがなほ可愛いゝ、ねきつと會ひたくて來たのよ、そうだらう？そうだらう？……

近く去る可愛ゆき者の
姿をば、今宵かぎりと
求むれど居ず

あゝ雨が降つてゐる。皮肉な雨が降つてゐる。今日Ｏ子の家へ遊びに行くはずだつたのに雨のために行けなくなつた。そのためにお前にも會はれない、期待して居る事は惣てうらぎられるものかしら、惣ての人に期待する事はよしてくれと私は言ひたい、皮肉な運命とはこれを言ふのだらうかあしたお前が上京してしまうと言ふのに今日行かなかつたら私はお前にも會ふ事が出來なくなつてしまう。あゝにくらしい。あまりにも皮肉だ。誠哉よ、お前は行つてしまうの？私に會はないで……私は明日お前を見送りしたいけれど、それも許される事かしら、發狂しさうな私を神よどうか一目會してやつて下さい。ねゝ誠哉いゝだろう。おこらないで會つてやつておくれ、たのむから、これ程お前をしたつてゐる私がわからないものかしら、神よどうぞ私の心を傳いて下さいませ彼に……

あゝ彼は明日行くんだ。明日！明日！。雨が降つてゐる。私は彼に會はれないどうしたらいゝんだろう。このまゝになつてしまうのかしら、せめてＯ子でも訪ねて來てくれたら樣子を聞く事も出來るのに、彼女は來ないし、あゝ駄目！駄目！駄目だ！頭がいたい。

私はうれしかつた。お前に會つて、この言葉より他に私は何とも云ひ樣がないのだ、たゞうれしかつた。この言葉に依つた内容の全部を理解してくれ、しかし『体を大切にしてね』それのみで別れてしまつたと思へば私の胸ははりさけそうだ。

金融 恩給年金 低利立替
軍人官吏其ノ他一般（教員巡査）モ速カニ御用立致シマス。御希望の方は表記へ御來談を乞ふ。
平町六丁目百〇壹番 鈴木龜雄

御愛乘下さい シボレーに！ そは先驅者なり

暑中御伺
四倉醫師齒科醫一同
四倉町役場 町長 新妻盛 助役 菅波千之助
四倉漁業組合 組合長 菅波末吉
四倉信用購買販賣組合
四倉藝妓屋組合
四倉驛前 關彰四倉出張所
松本苗木店 四倉驛前
味噌、醬油 酒、卸商 佐藤仲商店

新盆用戒名入提灯
技術本意安値自慢……!!
大小共何卒御註文の程御願致ます。
金子提灯店 平町才槌小路

シンガーミシン
磐城販賣所 常磐線平町驛前大通り
新品並ニ格安品 現金及ビ月賦販賣 針油糸付屬品 修繕並ビ中古品
ミシン裁縫教授 生徒募集
ミシン金融並ニ買入
責任保証ミシン賃貸

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平町田町（電話五八番）藤田女學校前

齒科口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木喜政
鈴木醫院
内郷村高坂磐炭病院前

外科全般 内科 小兒科
醫學博士 渡部義夫
女醫 渡部きい
平町田町大通り（電話二七七）
渡部外科
（入院應需）

赤井嶽、二箭山、桐ヶ岡山神の御參詣。夏井川溪谷、もみぢ、岩つゝじ、四季折々の遠足、遊覽絕好の御土産……品質保險風味絕佳……
小川郷驛前 發賣元 平屋百貨賣店
地方特約販賣店
平田町 かしわや菓子店
赤井嶽 遠藤賣店
赤井嶽登山口 米や商店
赤井驛前 増田屋商店
西小川 猪狩商店
高萩 橋本屋商店
同諏訪前 鈴木商店
同上平 有我商店
上小川 大平商店
同片石田 乘本商店
牛小川 鈴木商店
川前驛前 永山商店
磐城土産 靈峰やうかんが出來ました

有給社員招聘
年齡 二十五才以上五十才マデ
經驗ノ有無ヲ問ハズ奮闘ノ士ヲ望ム
希望者ハ履歷書送附アリタシ追而面會日時ハ通知ス。
有隣生命保險株式會社 平出張所々長 鈴木健司
平町大町十九番地

舊盆三日間臨時を運轉 乘客吸收に平驛が大童

地方書入れのお盆も愈々近づいたので平町の商街、花街は勿論、各方面ともボツ〳〵活氣を見せてゐるが殊に最近乘客激減で赤字續きの平驛では此の書入れ舊盆三日間に亘り左の如く臨時列車を運轉し松焚きや踊り見物の便を計る事となつたが舊十五日には小川郷から三百名の團体申込みがある模様で驛では腕にヨリをかけて乘客の吸收に意氣込んで居る

△舊十四日―平發久之濱行午後六時三十二分、久之濱發平行同七時八分
△舊十五日―平發久之濱行午後六時三十二分、久の濱發平行七時八分、平發小川郷行七時二十三分、小川郷發平行七時五分、平發湯本行七時二十分
△舊十六日―平發小川郷行午前零時二分、平發久之濱行零時九分、平發高萩行零時十分、平發久之濱行六時三十二分

癡遊伊藤代議士來援 明日平、内郷、四倉、江名 四ケ所で獅子吼す

縣議補欠選擧は四日後に迫て兩黨猛烈な言論戰を展開しつゝあるのが政友派候補赤坂亀次郎氏應援の爲本部から伊藤痴遊、中野寅吉兩代議士が來平左記日程で應援演説をなすことになつた
△十一日午後六時―江名、四倉
△同十一日午後七時―内郷第三校、平第三校

神谷分場の劃期的計畫見事に成功 馬鈴薯の二毛作を直ちに縣下に宣傳

神谷農試分場では縣下に於ける馬鈴薯の種芋が各地から移入され毎年十萬圓内外を下らぬのを遺憾として自力更生上自給自足に依つて之の行詰れる農業經營の實績が擧ぐべく今年度から初めて種芋の二毛作試作を行つた結果見事に發芽し現在三寸の延びを見せ遲くも十一月下旬頃は春蒔と少しも變りない收穫を擧げる事となつたので今秋の成績を見て全縣下に普及獎勵する事となつたが之の劃期的、鈴薯種芋の二毛作は同場に於て委託栽培中の耶麻郡下に於ける高原作種芋を七月上旬取寄せ約十日間蔭乾して二つに切り切り口の腐敗を防止する爲め藥灰を塗り之を同月中旬播種したもので一つの種芋で年二回收穫される結果を得た譯で之の種の種芋は比較的困難とされて居る夏期中の貯藏に堪へ更に光澤も味も頗る申分のない優良種であると之の事に係りの矢ケ崎技手は之の成功を雀躍して喜んで居る

磐中柔道部 神宮大會參加

磐中柔道部では來月下旬仙臺市に開かれる東北學院主催の明治神宮大會豫選全東北中等學校に出場する事に決定主將安部文平外遠藤文也、白井晃、武藤兼一、林武義の部員は暑休にも拘らず連日橋本部長指導の下に火の出る様な練習中

海水浴客で賑ふ 平驛の昨今 第二丑を峠に漸減

立秋も過ぎて耐ね難い酷暑も峠を越し朝夕の秋風に涼冷を覺ゆるに至つたので天候に惠まれて近年にない賑ひを見せた海水浴も愈々終末に近づき今夏一番の賑ひを呈した第二丑から昨九日迄の平驛乘車人員を見ると

三日―二、二五三人 四日―一、三三五 五日―二、五二二 六日―八六八 七日―九五九 八日―一、二二八 九日―一、一三〇

で次第に淋れつゝあり十五日第三丑を掉尾として一段落を告げるだらう

体重不足審査

去る

平驛の乘客激增 好天候續きと宣傳で 久方振りの黑字現出

平驛去月中の乘降人員、荷物發着は（括弧内昨年對比增）乘車―四二、四八〇人（一、六〇〇）降車―四一、三五三（一、四六〇）收入―一九、七一六、九三錢（五四七、四四）發送―三、二二四噸（五八四）到着―一九、〇一二（五二四）收入―五、八〇〇、七二錢（九四六、九八）で珍らしくも今年初めての黑字で驛員は何れも大喜びである之は天候順調で至極海水浴に惠まれたのと同驛が赤字補塡の爲め大童となつて宣傳中の出荷誘致が奏功した爲である

内郷村傳染病豫防警戒

内郷村では現在隔離病舍に收容中の傳染病者村側八名炭鑛側二名計十名あり昨九日も一名の新患者を出し更に終熄の模様がないので役場當局では村内の大消毒を斷行警戒につとめてゐる

平商校就職斡旋

平商では來春の卒業生就職斡旋の參考資料の爲此程矢野校長の名で今春卒業したもので就職口を開拓してやつた者二十餘名に對し暑中見舞を兼ねて其後の勤務時間其他を問ひ合せた

增收實に三割 豊漁の美酒に醉ふ 上半期の郡下各濱

郡下の鰹漁は愈々終末に近づいたので各濱では今中旬から漁船漁具を修理し來月中旬からの秋刀魚に出港するが各濱現在の漁船數は

町村	機船	帆船
小名濱	六三	六二
江名	七二	六三
中之作	三二	一五
豊間	一六	四〇
四倉	五四	八三
合計	二三七	二六三

で上半期中に約二十五萬圓の利益あり昨年より三割方の增加で永らく沈滯した濱は大漁のうま酒に醉つて居る

コソ泥 檢擧さる

永戸村合戸居住川前村下櫃賣生れ農猪狩一（三九）は去月二十七日夜平町古鍛冶町元木コハル方から現金五圓を竊取して昨九日夜平署員に檢擧され目下餘罪取調中である

第三校增築 工事遲れる

第三小學校々舍二階建て增築工事は目下大工平均二十名位づゝの出動で竣工を急いでゐるが完成豫定の本二十五日迄には今のところ竣工しそうもなく一ヶ月位遲れて九月に入るもの如き工事狀態なので町議の工

鐵道の異動 平驛關係分 本日發表さる

水戸運輸事務所管内の大移動は昨九日決定明十一日發表されるが平驛關係の分は今十日左の如く内報あつた

運轉係 大島恒介 茨城縣下菅谷驛長へ
車號係主任 髙木喜一郎 運轉係へ
豫備助役 鈴木彌市 茨城縣赤塚助役へ
車掌係 坂本良男 豫備助役へ
車掌助役 信澤長藏 茨城縣西金助役へ

第三兒童赤井嶽登攀 お話會に夜の冷涼を滿喫

平第三校五、六年男約百名は閼伽井嶽登山の爲各白米五合を携帶今十日午後二時徒歩にて出發今夜は藥師寺に一泊夜の境内散歩や教員僧職のお話會を開き明十一日は水石頂上まで登り午後下山すると

小林檢事赴任 今日平發で

米澤區裁判所に榮轉の平區上席檢事小林傳松氏は今十日磐越線午前九時發で關係者多數の見送りのうちに出發赴任した

穀檢支所移轉

穀物檢査所平支所では昨十日野崎タクシー側に事務所を移轉今十一日から仕事を開始した

小名濱短歌會

詩南社同人自選歌集はまゆふ發行所及月刊文藝社では「はまゆふ」出版記念並に月刊文藝同人故關園木實氏追悼歌會を來二十日午前十時より小名濱海岸新米バラックで開催するが、會費四十錢で兼題（題、船。自由題各一首）二首を十七日迄に小名濱町船引場三二小濱牧泉宛送稿され度いと

好成績のラヂオ体操 第一日以來の參加統計

第一、第三兩校庭で毎朝行はれてゐる町民ラヂオ体操は其の後も參加者多く昨十日は第一校生徒計六四九、一般八六、第三は生徒五九二、一般六四人で一日の當初に比較すれば減少を示してゐるがそれでも尚五十過ぎの老人から小さい一年生迄毎朝熱心な体操を續行して居る、因に開始當初一日からの昨十日迄の兩校別に於ける出席状況は

	第一校の部 生徒	一般	第三校の部 生徒	一般
一日	一〇三二	一〇五	二九七	四四
二日	一〇三六	一一〇	六七〇	四三
三日	九二六	一三三	六五二	四八
四日	七六二	一〇五	六三九	七二
五日	七二三	一〇九	六〇一	四九
六日	一一四	一二八	四七二	七七
七日	五七二	八七	五九九	四六
八日	七三三	一〇〇	五五九	四五
九日	七〇九	四六	五六二	六二
十日	六四九	八六	五九二	六四

第三校早起會

平第三校では今十日尊三以上が午前五時集合、宮城並皇太神宮遙拜、國旗揭揚、ラヂオ体操、夏休唱歌の早起會を行つたが殆ど出席の好成績であつたと

高橋光春さん 技能を謳はる

平町會議員高橋亀松氏令閨生花小原流師範高橋光春女史は過般上京國風館に開かれた夏期特別研究會に出席すべの盛花を出陳して大好評を博し更に大阪の家元宗匠方に濃留秘技を究め昨十日夜歸平一般の指導に從事する事となつた

神宮水泳大會 期待される磐中の 志賀、澁谷兩選手

此程のオールヂャパン東北豫選競泳大會に明治神宮全日本大會の出場權を獲得した磐中花形選手、志賀貞介（百、二百米平泳、二百米メドレーリレー）澁谷春夫（千五百米自由型、三百米メドレーリレー）の兩君は目下來る十三日の對磐炭との試合に備ふべく猛練習を續けて居るが兩君は交々今年は明治神宮大會へは棄權したが來年こそは卒業の期であり必ず出場すると語つて居た、來年の明治神宮プールに躍る高月健兒の奮闘こそ期待されやう

アワヤ溺死 危い水遊び

平第三小學校三年二組松崎せい（二）は昨十日午後二時頃夏井川すそで遊泳中誤つて溺れかゝつたのを折よく同所で泳いでゐた青年に救助され危いところをすくはれた

假ホーム設置陳情 波立と江田信號所に

小驛數年來の懸案となつて居る波立藥師及江田信號所附近の假ホーム設置は種々なる都合で實現されぬが今年の紅葉迄には是非實現する意氣込みで目下後藤驛長から所轄仙鐵及水輸へ運動中である

磐炭午睡所

磐城炭鑛では過般夜間作業者休み場所とし酒井場山神社の綠蔭と高坂第二劇場跡とを午睡場として能率增進上非常な好評を博し一日平均二三十名位が集つてゐる

。。。。。蛭田川改修陳情 勿來町酒井地内蛭田川の酒井堰は同村大字窪田、大高方面水田二百餘町歩に灌漑する重要堰であるが目下施工中の同町本年度匡救事業の爲め破壊され水不足を來して居るので關係農民は近く縣へ之が改修方を陳情する事となつた

体操講習會

郡下小學校教員体操講習會は二十日から同二十四日迄平第一校に於て開催する

。。。。郡下小學校教員郷土實態調査講習會は來る十三、四の兩日平第二校に於て開く

四倉通信

。。。。生花研究會 四倉町本町菊池艶月氏生花水物の夏季研究會を開くと

。。。。兒童美化作業 四倉小學校生徒の美化作業は今十日午前五時より開始、八時より夏季休業中の第一回召集を終へたと

磐中野球部寄附金追加（四）

金參圓―吉田金作、蛭田利光、金武圓―片寄小彌太、諸橋敬一郎、金壹圓五拾錢―酒井秀次郎、金壹圓―鍋田三重、渡邊久瀨尾藥局、名尾嘉作、門傳清吾、内藤悌治、渡邊登、櫛田忠義、松本眞平、明智一郎、入江愛、新田目五郎、添畑元吉、新田目春松、根本森太郎、草野央、渡邊富義、萩原義雄、山家メリヤス店、ライト寫眞館、大角金藏、福島モーター商會平出張所、金五十錢―吉田正夫、味岡子之松、佐藤學二、阿部材木店、武藤治郎三郎、今井義惠、高崎晴明、江尻四郎、根本辰男、熊諏次郎、山田盤麿、根本榮一、山野湧狀一、鈴木修三、渡野英男、吉田憲二、牛久英、國府田直良、星敏夫、若松信吾、折笠雲畔、松野尾繁雄、鶴屋旅館、金四十錢―青木次男

。。家出 福島市○町一二〇亥之松二男金成綾次（一九）は些細な事から實父に叱責されたのを苦にし十日無斷家出したのを昨九日實父から平署に搜索方を願ひ出た

。檢束。好間村中好間土工佐藤時雄（三八）は昨九日午後一時半頃平町新川町地内で泥醉通行人に暴行を働いて平署員に檢束された

。デフ。玉川村大原田中島松（八）は昨九日デフテリヤと決定療養中

これは珍商賣 カニ屋さん出現 ルンペン氏の頭のよさ でも利益は？

これは夏向きの新商賣近頃毎日平南町街頭へ二匹一錢のかに賣りさんが出現した商賣の主人公は四十過ぎのルンペンで小名、豊間、四倉と海岸邊を廻り漁獲した小さいかにを小供の遊びに二匹一錢づゝで賣りさばくのだが時節柄賣れ行きがたいしたものだ、それでもこの主人公が一日につかまへられるかには朝から晩迄でたつた僅か百五十匹位なものであるそうな、考へぬいた夏向きの資本いらずの新商賣ではあるまいか

。。。。校舍增築進行 四倉小學校增築校舍は工事着々進行休暇中大体完成し九月上旬には落成の見込であると

。。。。江上郡出新任 農試場長は今十一日自動車で來平官公署各方部を歷訪新任の挨拶を述べた

投書歡迎 檜投

。神は偽を好まず。

神は偽りを好み給はずこゝ數年新○町太神宮の例祭を見よ、人の出盛る頃と云へばきつと篠つくやうなにはか雨：この心あるが如き天の仕業こそ何を意味するものなるや、そは町内青年○長として又修養會○長として○○氏の言語に絶せる偶れる奉仕を神は怒り給ふ所以なり。町有志家達よ宮しく汚れし者は神へ近づかしむべからず。（敬神家）

平町慶弔錄

△出生 研町八坂木縣河内郡豊岡村倉ケ崎一三伴武吉氏二女和枝さん 古鍛冶町九一神谷辰夫氏三男公夫君 胡摩澤一一六中野義雄氏長男和彦君
△死亡 六間門二新潟縣刈羽郡石地町石地八〇山崎さだ（八〇）

舊六月二十一日 金曜 己酉 先勝 除 婁宿 新八月十一日

諸判定所 東京市本郷區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部

▲一白の人 新事業には不利多く舊態を守るが安全なり▲二黑の人 上下内外の親交を得れば應分の發達を遂ぐ▲三碧の人 援助引立を受けて活動力を增し志望を遂ぐ▲四綠の人 氣運旺にして大功を遂し活躍自在なる吉日▲五黄の人 吉なるに似て邪道に誘はれ間違を起し易し▲六白の人 豊富の財も袋の口を締めざれば散逸すべし▲七赤の人 我儘勝手を行ふ時は當外の惡化を呈する日▲八白の人 物事ちうちよせず勇氣を鼓して進むに利ある日▲九紫の人 華奢を戒しめ本業を守りて災禍を防ぐに吉

診療 胃腸 性病 内科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚病科 專門 松村内科醫院 （平町南町電一〇七番）

貸切ノ御用命ハ イツデモ眞先ニ（松崎ニ） 三九二タクシーへ（デンワ、ミクニ）

お醬油は……ヤマフル 醤油釀造屋 山崎合名會社 福島縣平町 電話（營業部一〇番 本店二七番） 味噌醬油 たひら正宗 鰹節 食料品 明治生命磐城代理店 山崎與三郎

外務社員採用 初任固定給月三十圓 廿五才以上、男、女を問はず 履歷書携帶左記へ面會毎日午后 平町田町一七 レストランサロン方 仁壽生命平駐在 吉田仁三郎 電話三五二番